

## 劣化した被せ物や詰め物は歯の負担に

被せ物や詰め物をした歯は、「治った」わけではありません。むし歯治療で使用される被せ物や詰め物は、歯の機能を補うための大切なパーツですが、時間の経過とともに少しずつ劣化し、歯やお口の健康に負担を与えてしまうことがあります。そのため、治療後こそ定期健診と適切なメンテナンスを行い、被せ物や詰め物の寿命を延ばすことで、再治療のリスクを減らすことが重要です。

### 劣化は必ず起きる現象です

素材にかかわらず、被せ物や詰め物は、日々の噛む力や温度変化、摩擦によって少しずつ劣化します。特にお口の中は、酸性の飲食物や唾液、細菌などが常に存在する、とても過酷な環境です。

#### 酸との戦い



#### 細菌との戦い



また、詰め物と歯の間には非常に小さな隙間があります。年月の経過とともに、わずかな段差が生じたり、接着剤が劣化したりして、細菌が入り込みやすくなります。その結果、詰め物の下でむし歯が再発する「二次う蝕」が起こりやすくなるのです。

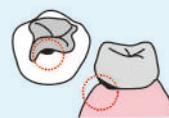
さらに、歯ぎしりや食いしばりの癖がある方は、強い力が加わることで被せ物・詰め物が欠けたり割れたりする場合があります。

#### 歯ぎしりなどの強い力



### 劣化すると起こるトラブル

隙間からむし歯に  
(二次う蝕)



かみ合わせに影響



歯や歯ぐきの  
痛み・炎症



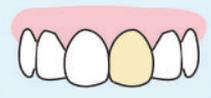
口臭の原因になる



はずれやすくなる



変色し見た目が  
よくない(特に前歯)



見た目には変化がなくても、内部で問題が進行している場合は珍しくありません。被せ物や詰め物の状態は、歯科医院で定期的に確認することが大切です。

特に、次のような症状がある場合は、早めの受診をおすすめします。

冷たい物がしみる

噛んだときに違和感や痛みがある

食片がよく詰まる

舌で触れると引っかかる



## 歯石は細菌のすみか!

## 放置が危険な理由とは

気づかないうちに歯の表面に溜まってしまいう「歯石」。歯科医院で「歯石がついていますね」と言われて、初めて意識する方も多いのではないのでしょうか。

歯石は、歯の表面に残った歯垢が唾液中のカルシウム成分などと結びつき、時間をかけて硬く固まったものです。歯垢はネバネバした細菌のかたまりで、毎日しっかり歯を磨いても、わずかに残ってしまうことがあります。その取り残された歯垢

が2~3日ほどで歯石へと変化します。一度歯石になると歯ブラシでは落とせず、歯科医院での専用器具による除去が必要になります。

歯垢 1mgの中に  
1億個以上の  
細菌がいるよ

歯垢の中



歯石の厄介なところは、その表面がザラザラしていることです。このザラつきに再び歯垢(細菌)が付着しやすくなり、歯石が増えれば増えるほど細菌が住み着きやすくなる悪循環が生まれます。細菌が増えると歯ぐきに炎症を引き起こし、歯周病の原因となります。歯石は自分では見えにくい場所につきやすく、気づいたときにはすでに歯周病が進んでいた...ということも少なくありません。もし、身近に何年も歯科医院へ行っていない方がいる場合は、ぜひ歯石取りを勧めてあげてください。

表面がザラザラして  
穴やくぼみもあるから  
住み着きやすい

